

れからの工事のすすめ方やお金のことなど、どうするか話し合いました。

一九六五年（昭和四十年十月）に、大山地区（岩高諸田向部落）が、一番さきにこの部落にある田んぼの工事にかかりました。広さは、四万二千五百平方メートルで、七百七十七万七千円の予算で、二か年でこのほ場（米づくりの仕事がしやすいように、田んぼの形や大きさをなおすこと）せいび工事を終わりました。

一九六七年（昭和四十二年）に大玉村の東がわを、東北自動車道がとおるのにあわせて、ほ場せいび計画がたてられました。

一九七〇年（昭和四十五年）から工事がはじまり、一九八〇年（昭和五十五年）まで、千二百二十ヘクタールの田んぼをせいびしました。そのひ用は、二十五億三千七百万円にもなりました。



（機械化されたようす）



（せいびされた水路）